漢検 漢検1級・準1級合格者のさらなる学びのために
生涯学習ネットワーク

# 会員通信

2019.6
Vol.31

●アンケート結果 …… 1
●第24回 研修会報告 …… 2・3
●漢字教育サポーター研修会報告 3
●漢字教育サポーターリレーコラム 4
●漢字研究の扉（コラム） …… 5
●書籍紹介 …… 6
●合格体験記 …… 7
●投稿募集 …… 8

## ネットワーク会員に聞きました！

今回のアンケートテーマは
**「私の愛読書について」**です。

会員の皆さまのお気に入りの一冊と、読書習慣について
お答えいただきました！（回答者:26名）

### Q1. 普段よく読む本のジャンルは？ ※1人2つまで選択

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 現代小説（戦後） | 14票 |
| 2 | 歴史・地理 | 8票 |
| 3 | ノンフィクション（エッセイ・伝記など） | 6票 |
| 4 | 実用書（趣味・自己啓発など） | 5票 |
| 5 | 語学 | 4票 |
| 5 | ビジネス・経済 | 4票 |
| 6 | 教育 | 3票 |
| 6 | 近代小説（戦前） | 3票 |
| 6 | ライトノベル | 3票 |
| 7 | その他 | 1票 |

### Q2. 皆さまの愛読書を教えてください

**1 『舟を編む』三浦 しをん 著【光文社文庫】（現代小説）**

辞書編集部の日常を描いたこの本には言葉や辞書に関する知識がたくさん詰まっています。現在高校生の私は小学生の頃から電子辞書を使っていましたが、この本を読んで紙の辞書に対する考え方が変わりました。辞書にはたくさんの愛情が注がれていることを忘れずに勉強していきたいです。（10代）

**1 2 『小説十八史略』陳（ちん） 舜臣（しゅんしん） 著【講談社文庫】（現代小説・歴史）**

漢字や中国史に興味を持つきっかけになった本です。文庫本6冊の大河小説ですが、梟雄や豪傑、美姫が次々と登場して、とにかく面白い。故事成語や四字熟語の勉強にもなると思います。（60代）

**1 2 『国銅』帚木（ははきぎ） 蓬生（ほうせい） 著【新潮文庫】（現代小説・歴史）**

時代は、奈良時代。大仏を作るために都に来た人足が主人公。その時代にいるような臨場感があり、名もなき人々が力を合わせて、事を成し遂げていくのに、しみじみ感動する。優しい気持ちになれる一冊。（50代）

**3 『自由と規律』池田 潔 著【岩波新書】（ノンフィクション）**

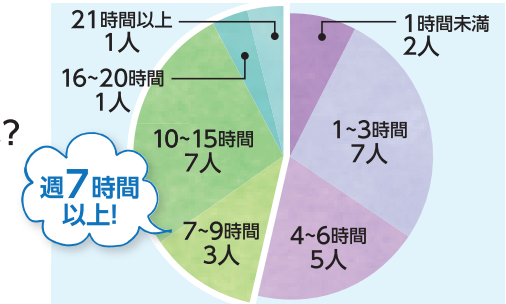
大学時代、書店でふと手にして「青春時代の生活の理想」のようなものを得た。後輩その他から「何か」と問われればこの本のことを話している。（70代）

**2 6 『彩雲国物語』雪乃 紗衣 著【角川ビーンズ文庫】（ライトノベル・歴史）**

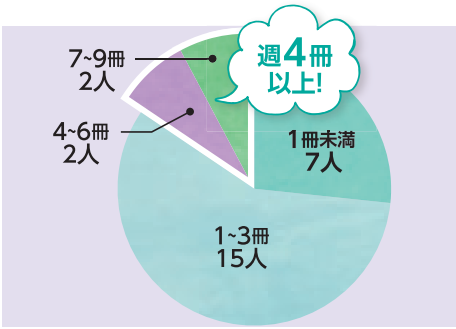
キャラクターが一人一人個性的で魅力的でハマる。中華系の話なのだが、この本で官吏のことがわかるようになり、学生時代の世界史で役に立った。難しい言葉もあり、辞典で調べたりしながら読んだりしたので単語の勉強かつ漢詩系の漢字の勉強にもなった。（20代）

他にも、『容疑者Xの献身』（東野 圭吾）、『カラマーゾフの兄弟』（ドストエフスキー）、『勉強の哲学』（千葉 雅也）、『太公望』（宮城谷 昌光）などの作品があげられていました。

### Q3. 1週間の読書時間は？




### Q4. 1週間の読書量は？




**編集部より コメント**

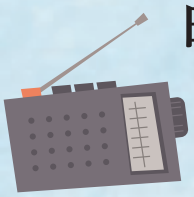
一番よく読まれているジャンルは現代小説、という結果になりました。また、中国や日本の歴史に関連した小説を愛読書にあげている方が多くいらっしゃった印象です。また、読書時間は4割以上もの方が週に7時間以上と回答。読書量に関しては、週に4冊以上（2日に1冊以上のペース!）の方も複数名いらっしゃいました。日々、多くの活字に触れていることが語彙力や漢字力の向上につながっているのかもしれませんね!

次回のアンケートテーマは「『令和』を生きる、私の二字熟語」です。回答方法は8ページをご覧ください！

研修会報告

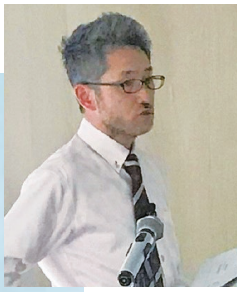
# 第24回 会員向け研修会を開催いたしました

2019年4月7日(日)に東京都内にて、第24回会員向け研修会を開催し、111名の方にご参加いただきました。
ご講演内容を簡単にご紹介いたします。



## 昭和の初めごろ、ラジオでは漢語をどのように扱っていたのか

NHK放送文化研究所 塩田(しおだ) 雄大(たけひろ) 氏



## 1.「標準語」の歴史

日本語では、江戸時代中頃までは京都のことばが「標準語」であり、東京のことばが「標準語」と考えられるようになったのはせいぜいここ250年くらいのことである。

江戸時代の参勤交代制により、各地の大名が江戸に一定期間居住し、その後各地方に戻ることで、江戸のことばが上級武士の使う上層言語として、日本中に広まっていった。江戸時代も後期になると、上方と江戸それぞれに標準語意識が見られるようになり、この頃の資料を見てみると、上級武士のことばは地方であっても現代の標準語にかなり近いことがわかる。

明治になり、武士たちが各地域に引き揚げたのちも、東京は様々な地域の人たちが生活する、流動性の高い地域であった。各方言の要素が混じりあうことで、ことばの規則の簡略化が進み、次第に東京語が形成されていった。また、政府の拠点は「江戸」から「東京※」に変わり、国民国家として政治・社会面での統一が進められた。当時はほとんどの人が各地域の方言しか話せなかったが、こうした流れの中で、日本のことばも統一すべきだという動きが生まれた。しかし結局は、人々の交流の過程で自然に生じることばの変化を見守るのが現実的であり、当面は日本の方言の実態を調査していく必要がある、という結論に辿(たど)り着いた。

また、平安時代以降、日本語の話しことばと書きことばは別物と考えられてきた。しかしヨーロッパの影響を受け、書きことばを話しことばに近づける言文一致運動がこの時代に急速に広まった。二葉亭四迷の「ダ体」、山田美妙の「デス・マス体」、尾崎紅葉の「デアリマス体」などの小説上の実験が代表的である。また、この運動における話しことばの要素は東京語に基づいて採択されたため、東京語が全国に広まる動きが促進された。

「標準語」という用語が登場したのもこの時期である。ヨーロッパ各国のように日本でも標準語を確立させる必要がある、と提言したのは、2年半のヨーロッパ視察から戻った上田万年(東京帝大教授)であった。彼は1895(明治28)年の『標準語に就いて』という本の中で、東京語がいずれ日本の標準語になると確信しており、そのためには今後東京語を練り上げていく必要がある、と主張している。

また、1904(明治37)年には最初の国定教科書『尋常小学読本』が完成した。これは口語体を採用しており、全国の小学校で使用された。しかし、ラジオもテープレコーダーもない時代のため、教科書で同じ文字を見ていても、当時の全国の教師が東京と同じ発音をしていたとは限らない。つまり、「標準語」を「読んで書く」機会はあっても、「聞いて話す」機会はまだ存在していなかったのである。

※ 当時は「とうけい」と発音した。

## 2. ラジオ放送の開始

1925(大正14)年、ラジオの仮放送が開始された。しかしその直後、アナウンサーの訛(なまり)に対して新聞に批判的な投書が寄せられた。放送開始当初、アナウンサーは各地方の放送局でそれぞれ採用されていたため、その地方の方言で話していたからだと考えられる。ラジオ放送で標準語を話す必要性については、当時の放送部長である矢部健次郎や音声学者の神保格なども言及している。こうした状況をふまえ1934(昭和9)年には、アナウンサー

を東京で一括採用し、数ヵ月東京で訓練したのちに全国に派遣することになった。

また、アナウンサーの訛や読み誤りを指摘する投書が相次いでいたが、当時はそれが正当な主張なのかを判断する基準がなかった。それまでは漢語をどう読むかはさほど大きな問題ではなかったが、ラジオ放送開始により、読み方を統一する必要性が生じたのである。

## 3. 放送用語委員会

そこで、放送に用いる日本語を整備するため、1934（昭和9）年、「放送用語委員会」（正式名称：「放送用語並発音改善調査委員会」）が発足した。放送用語の指針として、それまでローカルニュースは各地方の方言で放送されていたが、全国ニュースもローカルニュースもどちらも標準語で放送する、ということが決定された。

では、どのように標準語形を決定していたか。「杜撰」や「免れる」の読み方を例にとると、当時の辞典では「ずざん」「まぬかれる」を採用しているものが多く、当初は放送でもそのように読んでいた。しかし、当時の一般的な発音と辞典の表記が異なることばは少なからず存在しており、「杜撰」や「免れる」もその一例であった。委員会では議論の末、辞典の表記よりも世論調査の結果（＝実態）を重視し、「ずさん」「まぬがれる」と読むように変更したのである。

1938（昭和13）年には、漢語の読み方を決定する際の方針が立てられ、漢語の読みが一部改定された。それまでは素読の際、本来の字典音（字典に採録されている音）ではない誤った読み方をすることも多かったが、なるべく字典音に従って発音することが方針として決定された。

1940（昭和15）年頃から、戦争により国からの締め付けが厳しくなってきた。戦争の末期には、沖縄の状況を報道せざるをえなくなり、例えば「那覇」を「なは」と読むか「なわ」と読むかなどを決めていく必要が生じた。放送用語委員会は、「沖縄の地名の審議の提案」の中で、地理学者への地名の調査依頼を決定し、戦中の最後の活動を終えた。なお、敗戦から数ヵ月後に、放送用語委員会は復活して活動を再開し、今日に至る。

## 漢字教育サポーター 研修会報告

- 日時：2019年4月7日（日）
- 参加者：50名
- 研修会内容：
  サポーター講演会
  「初めての漢字」

漢字初学者向けの講座のコツや醍醐味、講座の実例や工夫などをお二人のサポーターにご講演いただきました。

### 1期生　ブレット・メイヤーさん

**主に非漢字圏の方向けの講座について**

漢字の意味や成り立ちをストーリーで教えることの大切さと、様々な工夫を凝らした自作の漢字サイトや漢字のカードなどをご紹介いただきました。その手法・発想に感動したという参加者のお声を多数いただきました。

### 1期生　植木ゆりこさん

**主に子ども向けの講座について**

うちわや新聞紙など、身近な材料にひと工夫加えたアイテムを用意することで、子どもたちが楽しく学べる講座になることを教えていただきました。また、「子どもはカラフルなもの、大きいものが好き」などの具体的なアドバイスが非常に参考になった、という感想も多く聞かれました。

**次回研修会は** 7月21日（日）長野県松本市 にて開催します。
皆さまのご参加をお待ちしております！ ※詳細は同封のチラシにてご確認ください。

## 漢字教育サポーターリレーコラム

このコーナーでは、リレー形式で漢字教育サポーターの皆さまによる漢字や漢字教育活動に関するコラムを掲載します。
第7回は神奈川県にお住まいの青木清徳さんにご執筆いただきました。

# 知新会のミニ講座

第2期漢字教育サポーター 青木 清徳

知新会は平成26年3月、第2期漢字教育サポーター育成講座修了式当日、有志10名で立ち上げた漢字の会である。会の目的は「默して識(しる)し、学びて厭わず、誨(おし)えて倦まず」(『論語』述而篇二)を実践することである。

8月を除き、毎月1回例会を行っている。例会の中心は「ミニ講座」である。これは漢字に関するテーマをA4用紙1枚にまとめ、1人15分で発表するというものである。このミニ講座を5年間続けてきた。

当初、悪戦苦闘していた資料作りにも徐々に慣れ、発表することにも気後れしないようになってきた。15分に収まらなかった発表も時間内に収まるようになってきた。「継続は力なり」。ミニ講座を数多く経験することで自身の講座の予行演習をしていたのである。

平成26年9月に地元小学校の放課後子ども教室で、漢字の成り立ちと漢字あそびをテーマにした「ひげジイの漢字教室」を開講した(年4回)。また、平成27年1月には地元公民館で「ふれあい漢字講座」を開講した(毎月1回)。

漢字ぼうずめくり

私に限らずミニ講座経験者のほとんどは何らかの形で講座に関わっており、ミニ講座は講座を実践するには最適の方法であった。

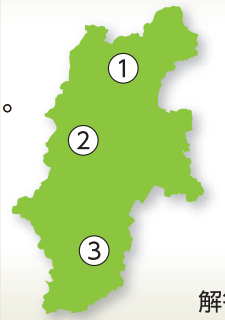
しかしながら、まだ道半ばである。「学びて思わざれば則ち罔(くら)し、思いて学ばざれば則ち殆(あや)うし」(『論語』為政篇十五)を肝に銘じ、今後もミニ講座を通して修養を積み、自身の講座に磨きをかけていきたい。

青木さんからの紹介で
次回は埼玉県の原田慎二さんのコラムを掲載します。
お楽しみに!

## 漢字クイズ 難読地名 長野県

今回は、次回研修会が開催される長野県の地名を紹介します。
以下の3つの地名は何と読むでしょうか。

① 鑪　(長野市)
② 水汲　(松本市)
③ 鼎一色　(飯田市)




解答は6ページへ

※画像はイメージです。

# 漢字研究の扉

このコラムでは、漢字文化研究所の研究員が「日本語や漢字の面白さ、奥深さ」を会員の皆さまにお伝えします。
漢字文化研究所とは、日本文化の側面から日本の漢字をつまびらかにする調査研究等を行うために、日本漢字能力検定協会内に置かれた組織です。

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 漢字文化研究所
小林 雄一

## 「おもしろい」を漢字で書くと…

『伊勢物語』の「東下り」の段に、三河の八橋で「かきつばた」を句の頭に織り込んだ和歌を詠む、という話があります。高校の古典（国語総合）でもよく扱われる、有名な場面です。この話は『今昔物語集』（以下、『今昔』）にも、漢字主体の表記となって収録されています。

> 小河ノ辺ニ劇草<u>懿ク</u>栄タリケルヲ見テ、具シタリケル人ノ云ク、「劇草ト云フ五文字ヲ、句ノ頭毎ニ居ヘテ、旅ノ心ノ和歌ヲ詠メ」ト
>
> （巻二十四―35）

「劇草」は、劇薬や劇物といったことばがあるので毒々しく感じますが、カキツバタのことです（この和訓は『倭名類聚抄』などに見えます）。「劇草ト云フ五文字ヲ」の部分を文字どおりに捉えると「劇草は二文字なのに五文字なの？」と数が合わないのが面白いですね。

さて、今回取り上げるのは「懿」の字です。『伊勢物語』の本文では「かきつばたいとおもしろくさきたり」とあるので、この字は「おもしろし」と読むのだと予想できます。

しかし、この字は『色葉字類抄』（三巻本）や『類聚名義抄』（観智院本）といった、『今昔』に近い時代の辞書には掲載されていません。多くの場合、この二書を調べればよいのですが、「懿」の字は、さらに古い辞書『新撰字鏡』に掲載されています。

『新撰字鏡』には「懿〈市貴反、心楽也、於毛志呂之〉」とあり、万葉仮名で「於毛志呂之」という和訓を注しています。また、説話集の『日本霊異記』（上巻・三十縁）にもこの字が用いられています。『日本霊異記』は漢文で書かれており、読みの不明な部分も多いのですが、それぞれの説話の最後に「訓釈」と呼ばれる注記が残っており、そこでこの字に「於毛之呂支〔おもしろき〕」と注しています。『今昔』でも「懿」を「おもしろし」と読むのでしょう。

「懿」の字が、『色葉字類抄』や『類聚名義抄』にはなく、『新撰字鏡』や『日本霊異記』といった書に見られ、それが『今昔』につながっていることに面白さを感じるのですが、ここまで書いてきて、江戸時代の学者、狩谷棭斎（1775-1835）が既に『日本霊異記攷証』のなかで、「懿」について上記のことを指摘していることに気が付きました。狩谷棭斎は偉大な学者であることを痛感します。

また、『今昔』では、「懿」の字が22回も用いられているのですが、なぜそこまで多用するのか、「懿」に加えて「面白シ」という表記も用いるのはなぜなのか等、興味は尽きません。

| 〈参考〉各資料の成立年代 |
| --- |
| ・『日本霊異記』823年頃成立 |
| ・『 新撰字鏡 』900年頃成立 |
| ・『倭名類聚抄』934年頃成立 |
| ・『今昔物語集』12世紀初期成立 |
| ・『色葉字類抄』（三巻本）1181年頃成立 |
| ・『類聚名義抄』（観智院本）鎌倉時代写 |

## 書籍紹介

### 『漢字（日本語ライブラリー）』

朝倉書店　2017年　沖森 卓也、笹原 宏之編著　本体 2,900円+税
【紹介者】東京都 吉田さん

漢字について<成り立ち、形、音、義、表記、社会、アジア>という7つの視点から最新の知見に基づき丁寧に概観しています。

たとえば第1章<成り立ちからみた漢字>では、世界の文字の歴史と概況を眺めた後、漢字の前史、漢字の構成（六書原理）、漢字の出自（中国製、中国の周辺地域製、日本製）と進み、漏れがありません。

また、第3章<音からみた漢字>で中国漢字音と日本漢字音の変遷を説明してから同音異字を論じ、第4章<義からみた漢字>で字義と字訓を説明してから同訓異字を論じており、現象を背景ごと捉えられます。

漢字の基本を忘れたとき立ち戻る本として有効です。

### 『漢字学ことはじめ』

公益財団法人 日本漢字能力検定協会　2018年　日本漢字学会編
本体 1,200円+税

2018年3月、日本漢字学会設立の記念シンポジウム「漢字学の未来を考える」が開催されました。本書は、文字、古辞書、哲学、国字、ヴェトナム語、中世日本語の6つの分野の第一線の研究者たちが、シンポジウムで行った講演内容をわかりやすくまとめたものです。「漢字学ことはじめ」というタイトルのとおり、それぞれの分野の入門的な知識が身に付くだけでなく、漢字が様々な世界とつながっていることを実感できる一冊となっています。既に漢字に興味や知識をお持ちの会員の皆さまも、漢字の新たな魅力を再発見できるはずです。ぜひ一度お手に取ってみてください！

<目次>
◎漢字学の未来を考える（阿辻哲次）
◎日本古辞書研究からの提言（池田証壽）
◎韓国人の世界観と漢字（小倉紀藏）
◎漢字研究の広がりと可能性（笹原宏之）
◎日本における漢喃研究（清水政明）
◎漢字が日本語を育んできた（山本真吾）

## 漢字クイズ 難読地名 長野県 解答編

① たたら（鑪）
② みずくま（水汲）
③ かなえいっしき（鼎一色）

【今回の一字】 鑪 （1級）

音：ロ　訓：いろり・ふいご

意味：①いろり。ひばち。②ふいご。かじやが火をおこす道具。③香をたく器。「香鑪」④さかば。酒を売る店。

参考：『漢検 漢字辞典[第二版]』・「漢字ペディア」

※「漢字ペディア」は登録商標です。

合格体験記

# 1級に初めて合格しました！

漢検の最高峰1級に初めて合格した会員の喜びの声をご紹介します。

私は35年間高校の数学教員をしています。国語が大の苦手。国語への苦手意識を払拭できないかと思い立ったのが漢検受検。まずは2級の問題集から始めましたが、検定日まで3ヵ月ほどあったので準1級の問題集も買いました。準1級では、知らない語句や諺が殆どで1ページ進むのにも、とても時間がかかりましたが、四字熟語や諺には興味深いものが数多くあり、楽しく学ぶことができたと思います。振り返ってみると、「漢検は準1級からがおもしろい」といえそうです。もっと早く漢検に挑戦すべきだったと後悔もしました。

平成29年度第3回検定で2級と準1級に合格。準1級では「理事長賞」。調子に乗って、平成30年度第1回検定で1級に挑戦しました。しかし、「合格まであと7点です。」というとても悔しい思いをしました。その後、これまで勉強した問題集に加え、漢検漢字辞典や漢検四字熟語辞典、過去問題集などを買い揃えて勉強を続けました。また、インターネットの1級合格を目指す記事なども利用させていただきました。その結果、平成30年度第2回検定で合格することができました。特別な工夫はありませんが、1日も欠かさず短時間でも1級配当漢字に接することを心がけたことが功を奏したと思います。

漢字は根気強く気長に勉強することが必要で、なかなか大変なのですが、学べば学ぶほど漢字の奥深さが増し、漢字への興味は尽きません。漢字についての知識は、既に何度も1級に合格されている方とは比較にならないほど未熟なので、今後も精進していきたいと思います。

（愛知県 夏目さん）

**夏目さんへのコメント**

1級合格おめでとうございます！漢検を通じて漢字や言葉の奥深さを感じていただけたことを、とても嬉しく思います。苦手なことにも挑戦する夏目さんの姿勢や、地道な努力を重ねて掴んだ1級合格は、生徒の皆さまにも大きな励みになったのではないでしょうか。今後もぜひ、研修会などを活用しながら漢字の学びを深めていただければ幸いです。

準1級の合格までは、ほぼ順調でしたが、“夢の1級合格”への達成には何年もかかり、大苦戦しました。それまでは、言わば“ごちゃまぜ”の漢字の学習でした。しかしながら、1級合格は、その行きあたりばったりの思いつきの学習では、通用しないことに我ながら気づいたのが、1級合格の半年ほど前の時点のことでした。

“急がば回れ”。自分に言い聞かせ、専用ノートの作成に着手しました。1級の出題対象漢字群を面倒がらずに、全部まず、じっくりと書いてみようと決心しました。漢字の構成は、偏と旁なので、学習の取っ掛かりとして、偏に重点を置きながら、あいうえお順に書き出すことにしました。同じ部首が絡む漢字を把握しつつ、“この部首が絡む漢字は、この数しかない、全部書ける!”という自信を持つことが、まず肝要だと思ったことを今でも鮮明に覚えています。

それと、私には、漢字を覚え記憶をキープし続けるコツがあります。周りの、出会った人たちとの日常会話そのものも大きな学習材料で、会話の単語を頭の中で即時に漢字変換すること。そして、書けない漢字（単語）は、しゃべらないことです。漢字を自由自在に書けるようになるには、漢字への着想力、連想力、それに“親しみ力”が大きく作用するのも事実、が自論です。

（埼玉県 井上さん）

**井上さんへのコメント**

1級合格おめでとうございます！試行錯誤しつつもご自身にぴったりの学習方法を見つけ、ストイックに実践されたことが井上さんの合格につながったのですね！
また、日常生活の会話を学習材料にする方法は、全ての漢字学習者の参考になりそうです。これからも漢字に親しみながら、周囲の方にも漢字の魅力や学習方法を広めていただけると嬉しいです。

# お知らせ 会員通信への投稿募集中!

会員通信を充実させるため、会員の皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしています。

アンケートにご回答、もしくはご投稿いただいた方の中から3名の方に「今年の漢字」図書カード(500円分)をお送りいたします(当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます)。

## 会員向けアンケート回答方法

### 次回のアンケートテーマ「『令和』を生きる、私の二字熟語」

皆さまは「令和」時代をどのように過ごしたいですか?ご自身の意気込みや想いを二字熟語(創作二字熟語でも可)に込めてお答えください。右記の二次元バーコードを読み取るか右記のアドレスを入力し、2019年8月5日(月)までにご回答をお願いいたします。

https://ssl.kanken.or.jp/webapp/form/16770_avy_129/index.do

※上記のアドレスにアクセスできない場合、メールもしくは電話にてお知らせください。郵送・FAX・メールいずれかの方法でアンケート用紙をお送りします。

## 1級に初めて合格しました!

あなたの合格体験が、1級を目指している方々の励みになります。どのようにして合格に至ったのか、「貴方の」経験をご投稿ください。

**投稿内容**:①合格時期
②合格までの受検回数
③合格に向けて工夫したこと、励みになったこと
④合格した時の気持ち、感想
⑤今後の目標

※文字数:項目①～⑤までの合計で500字以内
※対　象:平成29年度第3回(2月)～2019年度第1回(6月)の検定で初めて1級に合格された方

## 書籍紹介

漢字・日本語に関する書籍で面白いと感じたもの、興味を持ったものをご紹介ください。

**投稿内容**:①書名　②著者名　③出版社名　④発行年
⑤お薦めの理由(250字以内)

## 漢字クイズ・パズル

漢字に関するオリジナルのクイズ・パズルのご投稿をお待ちしております。

**投稿内容**:①問題　②解答(未発表作品に限る)
※例:漢字クロスワードパズル、難読漢字パズル、漢字クイズ等

## イベント告知

ネットワーク会員に向けて、漢字に関するイベントや学習会、研修会の告知ができます。

**投稿内容**:①日時　②会場　③内容　④参加費
⑤公開してもよい連絡先(メールアドレス・電話番号等)

※会員通信は6月、10月、2月に発行予定です。情報をお寄せいただいた時期によっては、会員通信ではなく、メールマガジンでのお知らせとなる可能性がございます。

## 投稿方法

①～④を明記し、メールまたはFAX、郵送にて下記の宛先にお送りください。
①会員番号　②氏名(ペンネームも可)　③電話番号
④各コーナーへの投稿内容やご意見・ご感想

**投稿先**　日本漢字能力検定協会
生涯学習ネットワーク担当

メール:lifelong@ic.kanken.or.jp
FAX:075-532-1110
郵送:〒605−0074
京都市東山区祇園町南側551番地

次号の締切日:2019年8月5日(月)

※投稿・会員通信へのご感想は随時受け付けております。
※お名前・ご連絡先を投稿される場合、掲載しても差し支えないかご確認ください。
※未成年の方は保護者の方の同意を得て、ご投稿をお願いいたします。
※全てのご投稿を掲載、採用できるわけではございません。また、原稿は一部割愛・校正させていただくことがあります。ご了承ください。


漢検®
公益財団法人 日本漢字能力検定協会
本部 〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地
https://www.kanken.or.jp/
フリーコール 0120-509-315
月～金9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)
※検定日とその前日の土・日は窓口を開設
※検定日・申込締切日は9:00～18:00


※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。無断転載・コピー不可。
プライバシーマーク 20000098(07)